

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	当院における経口抗がん剤に関する薬剤管理サマリーの現状調査
研究責任者	佐藤 智子
研究機関名	日本赤十字社医療センター
研究目的と意義	<p>目的: 病院から保険薬局へ入院患者さんの医薬情報を伝達するツールとして「薬剤管理サマリー」があり、当院でも2020年7月より活用しています。特に経口抗がん剤においては、薬剤管理サマリーを活用することで有害事象の早期発見など、退院後の薬学的ケアを入院から地域へシームレスに行うことができます。薬剤管理サマリーによる薬物治療の質の向上を目的に、当院における薬剤管理サマリーの現状について調査を行います。</p> <p>必要性: 薬剤管理サマリーを活用することで、入院時経口抗がん剤を導入した際のスケジュールや用量、患者さんの情報等を保険薬局と共有でき、退院後の副作用モニタリング等のフォローアップが容易になると考えます。従って、経口抗がん剤における薬剤管理サマリーのフォローアップに関する現状調査を行うことは重要です。</p>
研究方法	<p>2020年7月1日から2023年3月31日において、以下の薬剤を入院中に新規に導入し、退院後も継続している患者さんについてカルテより後方視的に調査を行います。経口抗がん剤の服用期間や治療レジメン・スケジュール、有害事象の有無、対象薬剤における院外処方せん発行率、かかりつけ薬局の有無等を評価項目として流通量・使用頻度の高い薬剤(ティーエスワン配合錠)群と流通量・使用頻度の低い薬剤(タルセバ錠、ネクサバル錠、レンビマカプセル、スチバーガ錠)群とで比較します。</p> <p>調査対象薬剤: ティーエスワン配合錠、タルセバ錠、ネクサバル錠、レンビマカプセル、スチバーガ錠</p> <p>この方法は後向き観察研究で、新たに患者様への負担はかかりません。個人名を消去し、代わりに番号などを付与して匿名化する方法で、統計解析を行います。その結果は医学・薬学系の学会等に公表されることがあります。</p> <p>研究に組み入れられることを希望されない方は、下記担当者にお知らせください。その場合、データ収集や統計解析は行いません。また、参加を希望されなくても患者様への不利益はありません。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター 薬剤部 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者: 佐藤 智子 TEL: 03-3400-1311 FAX: 03-3409-1604</p>